

立憲民主党

今と将来をどう支えるか  
市民の暮らしを守りぬけ

菅原 みほ 千間 いずみ  
森 しんいち

次世代へ責任ある選択

物価高騰や社会保障費の増加、老朽化した公共施設のインフラ更新需要が重なる。今を支える施策と将来負担の抑制との両立をどのように図るのか問う。

施策の柱を子ども・環境・平和・若者の4つとし、具体的な施策を着実に積み重ねる。学校施設の更新や道路整備などは借入れと償還のバランスに留意し公債費管理の徹底に取り組む。

デジタル化と高齢者

行政DXを進める中で、高齢者や障害のある方への対面支援の維持はどうか確保するのか問う。

デジタルデバイドの解消に向けた取組を行う。

若者の奨学金負担を半減へ

若者の経済的負担を軽減する取組として期待する奨学金返還支援だが、本市ならではの特徴は。

支援額を返還額の2分の1とし、年間10万円を限度に支援。年間2回の申請で、その都度交付を行う予定。

認知症ケアは身近な課題

ユマニチュードの一般家庭や看護現場への普及目標を問う。

普及目標や効果は(仮称)西東京市認知症施策推進計画の中で整理する。

WiFi整備と災害時活用

情報発信の強化

HPのリニューアルだけでなく、SNSを通じて情報提供も重要である。これまでの取組と今後の展開について問う。

LINEの防災メニュー拡充や配信方法の見直しを行った。Xでは新たな企画を開始し、動画もロゴ導入など改善を行い、発信強化に努めている。



市公式LINEの防災情報メニュー画面

ピーポくんの家について

地域で子どもの命と健康を守る環境を整える上で「子ども10番ピーポくんの家」事業は重要と考えるが、市長の見解を問う。

安全・安心な地域づくりや防犯意識の向上のためには大変重要であると認識し、支援している。

新学期までに道路整備を

通学路の白線の点検・整備や自転車のルール強化に伴う市内道路の補修・整備を早急に進めることを望む。

警察の所管となる部分が多いが、新1年生が通学する新学期に間に合うように田無警察署に要望するとともに市も協力して取り組む。

優秀な職員の流出を防ぐ

市職員の地域手当は東京23区20%、武蔵野市18%、それ以外の多摩25市が16%と多摩格差が生じている。市長が先頭に立ち東京都へ要望することを望む。

他自治体の動向を引き続き注視していく。

日本共産党西東京市議団

市民の声に真摯に耳を傾け、  
市民生活を守る市政へ転換を

大竹 あつ子 やまき 明美  
中村 すぐる

国民健康保険料の引上げ

物価高騰など苦境の中でなぜ今保険料を引き上げなのか。市は国の言いなりとなり、赤字解消の方針に従って繰入れを削り、市民に痛みを押しつけている。国保の構造的欠陥を国に正させるべきだ。値上げ案の撤回を求めるが、見解は。

都の保険料統一化や国民健康保険運営協議会に諮問し、答申が出たため改定の判断をした。

市民は限界でこれ以上の引上げに納得していない。国民健康保険財政健全化計画で年収400万円のモデル世帯では、最終的には年額いくらになるのか。

58万8千900円だ。

収入の約14%が国保料で消えてしまう。市民を困窮させる改革は根本から見直すべきだ。

学童クラブ

学童クラブの過密化が深刻だ。過密化解消にどう取り組むのか。放課後子供教室との連携について問う。

タイムシェアや小学校内の整備、教育委員会や学校と調整を図り過密化の解消に取り組んでいく。

放課後子供教室との連携は喫緊の課題だ。タイムシェアに頼らない施設整備を求める。

保谷庁舎敷地活用  
保谷庁舎に子どもの施設

国民健康保険料の引上げ

設ができて有料だとわかるとがっかりしてしまう。市で、無料で遊べるスペースや中学生の居場所を整備すべきではないか。

民間事業者の整備なので市が行うことは難しい。

市の子ども条例には「困難な状況にある子どもの参加を大事にするまことにする」とある。無料で遊べないのはこの精神に反するのではないか。子ども条例の重みをかみしめ、できるだけ多くの子どもたちが利用できる方法を考えるべき。

震災用井戸  
震災用井戸のPFAS調査で7か所の井戸が故障していたことが判明した。その後の対応は。市内3か所の応急給水ステーションは未耐震で首都直下地震等に対応できていない。水道は1か月から数か月止まる可能性もある。全市民への水の備蓄は何日分か。

5か所の井戸は改修し、2か所は近隣の井戸所有者と連携体制を構築した。水の備蓄は17日分だ。

田無第三中学校への公共施設の複合化

田無第三中学校の建て替えに伴う公共施設の複合化方針について、具体的な施設配置やフロア配置が未だに示されていない。今後のスケジュールは。

平面計画の策定に当たっては、子どもたちや教職員、地域の方々等への意見聴取等を経て、進めていきたい。

西原総合教育施設の今後について、検討状況は。

施設利用をしている各団体への情報提供をしながら、調整を進めている。

在宅療養連携支援センター

支援拡充の詳細は。

にしなの体制強化及び医療と介護の連携強化を行う。

歯科医との連携も重要と考える。医療・介護は人材不足。人材養成を求めらる。

駅窓口の遠隔化対応

西武柳沢駅と東伏見駅の窓口廃止、インターホンの対応を市が知らされたのはいつで、その対応は。

昨年11月に知り、利便性、安全性の確保と確実な情報提供を事業者に求めた庁内情報共有は12月末。

11月時点で、庁内で情報共有し、市民への影響を検討すべき。市は市民の不安払拭に努めよ。



議会 INFO

マイクの声をもっと近くに

議会の議論を、もっとクリアに聞き取りやすく

議会の傍聴席に「磁気ループ」を導入しています。議員や市長の声を、直接耳元でお聞きいただけます。「傍聴してみたいけれど、聞こえに不安がある」という方も、ぜひお気軽にお越しください。



受付で貸し出している専用レシーバー



Q. どんな仕組み?  
A. 議場・委員会室のマイク音声を磁気波に変え、補聴器やレシーバーへ直接飛ばすシステムです。



Q. 誰でも使える?  
A. 補聴器をお持ちの方は、「Tモード(テレコイル)」に切り替えてご使用いただけます。専用レシーバーの貸し出しも行っています。ご希望の方は、傍聴手続の際、受付にてお申し出ください。

\*デジタルデバイス インターネットやICT技術を利用できる人とできない人の間に生じる格差。